

あいさつ

武雄市立武雄中学校 校長 熊野辰未

今日、日本は、高度な情報化・グローバル化・少子高齢化等いわゆる「激変する予測困難な社会」を迎えており、その先には、「Society5.0」や「人生100年時代」と言われる社会が待っているとされています。そうした社会を子供たちが豊かに生きられるように若年期の教育や生涯にわたる学習環境、そして資質・能力の向上が求められています。

こうした社会の状況と要請を踏まえ、新学習指導要領が、小学校では今年度から全面实施となり、中学校では来年度から全面实施となります。そのような中、本校では、平成30年度まで、校内研究の研究主題を「生徒の学ぶ意欲を高める指導法の工夫と学習環境づくり」と掲げて3年間授業研究会などを通して研究実践を進めてきました。

今回、学習指導要領の改訂を控え、佐賀県教育委員会より「平成31年度新学習指導要領研究指定校」に指定され、令和元年度から2年間、研究主題を「生徒の学ぶ意欲を高める指導法の工夫」と掲げ研究に取り組み、特に、「学ぶ意欲」を高め、「確かな学力」を身に着けることを重点に、「主体的・対話的で深い学び」の研究と共に「評価」の研究に取り組んできたところです。

「学習意欲」については、学校教育法第30条第2項において、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と示されています。主体的に学習に取り組む態度とは、学習意欲が継続・定着した生徒像にほかならず、また、学ぶ意欲の高まりとは、様々な枠を超え総合的で確かで豊かな発想力・想像力の芽生えと伸びであると考え、取り組んできたところです。

今年度は、2年計画の2年次にあたり上述した研究主題に基づき授業研究や評価の研究に取り組んで参りました。「国語科」を中心に全教科、全職員で取り組み、令和3年度からの新学習指導要領に対応できるように研究を進めて参りました。しかし、昨年度からのコロナ禍の中、当初予定していた計画通りには研究も行うことが出来ず、十分であるとは言えませんが、ここにこれまでのその成果と課題を報告いたします。

最後に、本研究を行うにあたりご支援いただきました佐賀県教育委員会、武雄市教育委員会をはじめ、本研究において貴重な指導・助言をいただきました佐賀大学教育学部の竜田徹先生に、心からお礼申し上げます。今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます、あいさつといたします。